



#今月の特集関連本



ある日突然、慢性疲労症候群になりました。

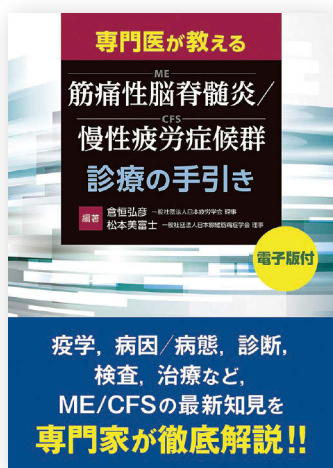
ゆらり＝著

倉恒弘彦＝執筆

本体 1,400 円＋税／A5 判・176 頁／合同出版／2019

本特集の巻頭特別メッセージ (p.792) は、本書から 4 コマ漫画を一部転載させていただきました！ ぜひご一読ください。

いたって健康だったのに、ある日突然、身体が鉛のように動かなくなったのです。「なんだこれ!?!」。その病名から「疲れやすい人」「疲れのとれない人」などと誤解されがちな慢性疲労症候群 (p.797)。疲れなんかじゃないんです…。なかなか周囲の理解を得られないこの病気のことを、ぜひ本書を読んでください。



専門医が教える

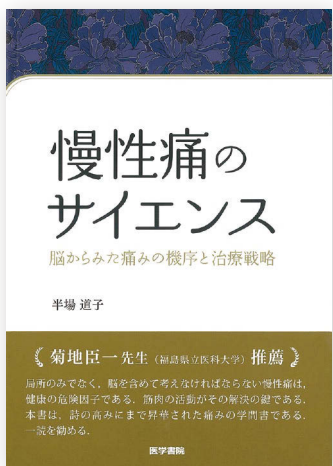
筋痛性脳脊髄炎 / 慢性疲労症候群 (ME/CFS) 診療の手引き

【電子版付】

倉恒弘彦、松本美富士＝編著

本体 4,300 円＋税／B5 判・186 頁／日本医事新報社／2019

病因・病態の解明に向けた臨床研究が進む筋痛性脳脊髄炎 / 慢性疲労症候群 (ME/CFS)。本書では厚生労働省・日本医療研究開発機構 (Japan Agency for Medical Research and Development : AMED) 研究班での病因・病態の解明、治療法の開発に携わってきた専門家が筆を執り、同疾患の最新知見を開陳。ME/CFS の概念、歴史や疫学、診断および鑑別疾患、治療などについて、最新の知見をまとめた。



慢性痛のサイエンス

脳からみた痛みの機序と治療戦略

半場道子＝著

本体 3,400 円＋税／A5 判・204 頁／医学書院／2018

痛み概念に大きなパラダイムシフトが起きている。本書では、加速化する新しいサイエンスの視点から慢性痛を、脳科学・神経科学からそのメカニズムを紐解き、そこから治療のターゲットを明らかにする。さらに、新しい痛みの概念として、慢性炎症による神経変性疾患の病態に迫る。慢性痛のメカニズムからその正体に迫り、痛み診療に希望を与える 1 冊！「線維筋痛症」(p.818) も取り上げられています。



General Mindで攻める

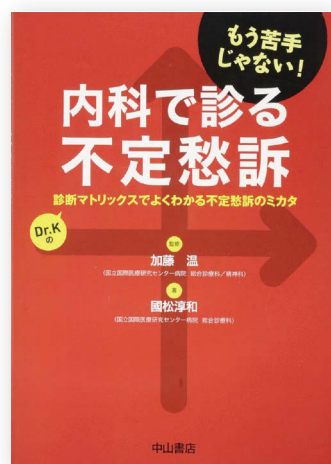
総合内科で診る内分泌疾患

大塚文男＝編著

本体 5,800 円＋税／A5 判・372 頁／中外医学社／2020

本特集Ⅱ章で「内分泌疾患」(p.844)をご執筆の大塚文男先生の最新刊。

多種多様な症状や所見から病態・病勢を仕分け、鑑別診断を進めるプロセスに有用な内分泌学的思考を理解できる 1 冊。頻度の高い疾患から、稀ではあるが重要な病態、そして漢方診療や女性外来を含めた新しい取り組みまで幅広く取り上げる。総合診療において内分泌の視点をもつこと、そして内分泌診療にもジェネラル視点をもつことで、苦手な内分泌分野も得意に変わるだろう。



内科で診る不定愁訴

診断マトリックスでよくわかる不定愁訴のミカタ

加藤 温＝監修

國松淳和＝著

本体 3,200 円＋税・A5 判・172 頁／中山書店／2014

本特集Ⅱ章で「膠原病・慢性炎症疾患」(p.848)をご執筆の國松淳和先生の出世作。同シリーズに『外来で診る不明熱』(中山書店、2017) もあり。

一見、器質的な異常がないようにみえる患者さんを“不定愁訴”にして他科に送る前に、もう一度本当に器質的な疾患がないか、よく診てみよう。不定愁訴と間違いがちな、わかりにくい内科疾患の鑑別方法を、診断マトリックスなど著者オリジナルの手法で鑑別する診断技術のエッセンスが詰まった濃い 1 冊！



《ジェネラリスト BOOKS》

“問診力”で見逃さない神経症状

黒川勝己、園生雅弘＝著

本体 3,200 円＋税／A5 判・150 頁／医学書院／2019

神経疾患の詳しい知識がなくても、神経学的診察が苦手でも、“問診だけ”で鑑別疾患はここまで絞り込める！『医学界新聞』の好評連載「こんな時にはこのQを！」“問診力”で見逃さない神経症状”の待望の書籍化。「頭痛」「めまい」「しびれ」「意識消失」などよく診る神経症状について、common（一般的）な疾患を見分け、critical（重篤）な疾患を見逃さない“問診力”が身につく 1 冊。